

鹿野城（鳥取市鹿野町鹿野）

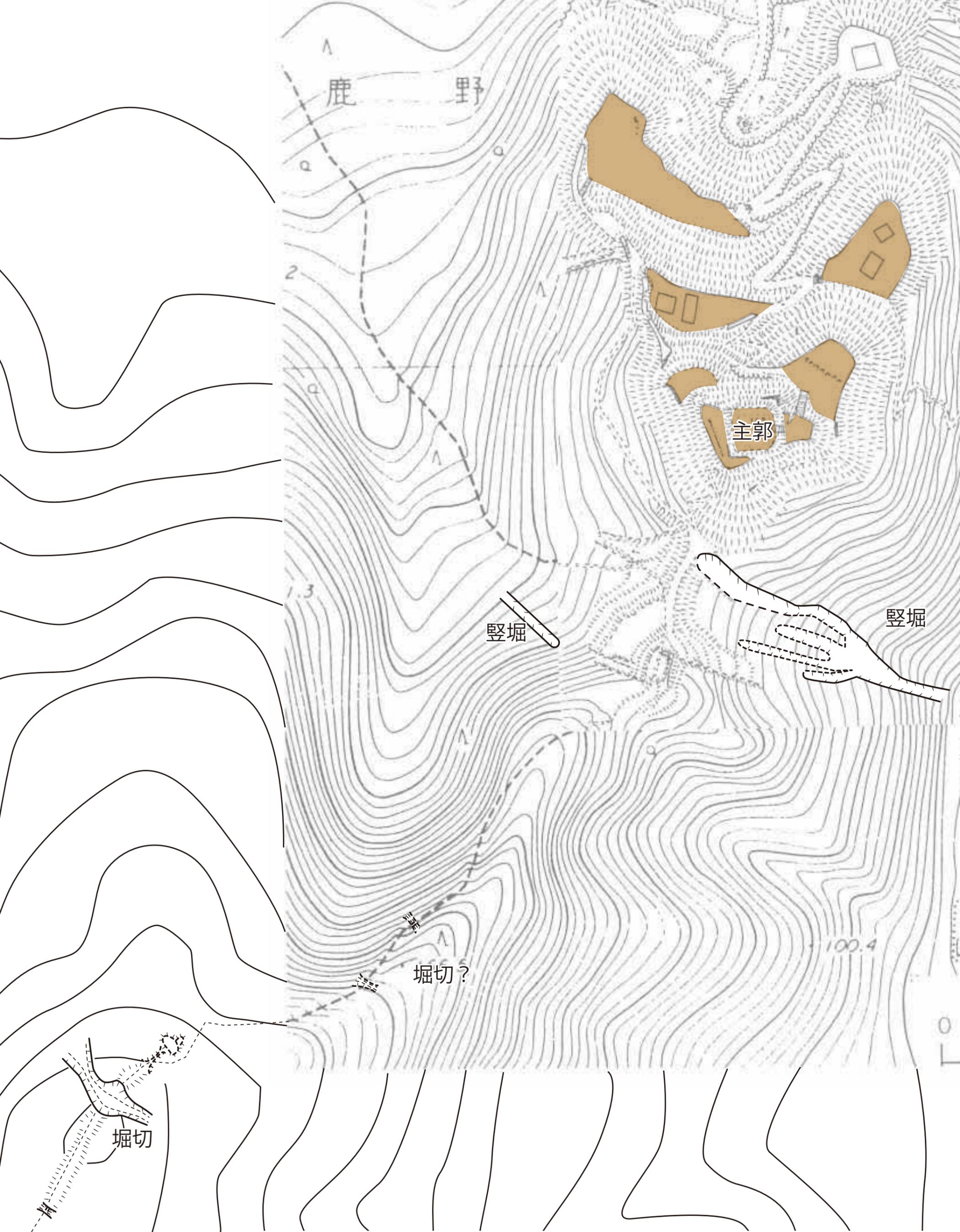
因幡の西、鷲峰山（標高 920.6 m）の北麓、独立丘陵気味にそびえる妙見山（標高 150.3 m）にあります。天文期に志加奴氏が尼子軍に攻略され、古城化した後、天正元年に毛利方により「因伯仕切りの城」として再建され、慶長期に鹿野城主となった亀井茲矩により近世城郭に改修されました。山頂から北側は石垣を備えた近世城郭に改修されていますが、妙見山の背後の山塊は流山と呼ばれ、妙見山との間は低い尾根でつながる鞍部となっており、鞍部東西の斜面には豎堀が残されています。鞍部から流山にかけての尾根筋には堀切を確認することができます。昭和 56 年に発掘調査が行われていますが、中世の遺構については調査されておらず、妙見山、流山全体を含め、遺構を確認していく必要があります。



西から見た妙見山（城山）、流山



流山頂部の堀切



高田徹氏作成図を一部改変
 高田徹2000「若桜鬼ヶ城における破城の可能性について」『因幡若桜鬼ヶ城』から引用

令和元年5月24日 調査
 令和2年2月5日 再調査